

令和5年度 川崎市立日本民家園事業計画・評価シート

■評価

つぎの3段階とする。

A: 目標を充分達成し成果を上げている

B: 目標を概ね達成している

C: 目標を達成しておらず改善が必要である

■令和5年度の重点目標

- ・園内の安全対策の推進
- ・園内・古民家内の展示整備
- ・廃止も含めた事業の見直し
- ・日本民家園運営基本方針の策定

項目	令和5年度実績	令和4年度実績値	令和3年度実績	平成30年度実績値(コロナ禍以前)
総入園者数	115,373人	101,125人	101,664人	111,841人
有料入園者数(有料率)	45,281人(39.2%)	39,962人(39.5%)	47,578人(46.8%)	47,994人(42.9%)
外国人入園者数	9,669人 (前年比267.3%)	3,617人 (前年比 211.2%)	1,713人 (前年比107.3%)	7,191人
総入園料収入	19,800,310円	15,848,420円	19,000,880円	18,636,800円
WEBサイトアクセス数(英語版)	618,193件(42,348件)	563,409件(25,076件)	626,100件(11,770件)	640,151件(47,426件)
来園学校数	166校	149校	135校	192校
伝統工芸館藍染体験参加者数(伝統工芸館事業収入)	1,990人 (6,677,001円)	1,351人 (4,868,521円)	1,162人 (4,662,743円)	3,029人 (4,659,645円)

1 保存・研究・展示・普及活動

(1) 文化財の保存・調査研究の推進

現状： 25件の文化財建造物を移築復原し、長期計画を立てて補修工事を実施している他、日常的な維持管理業務として燻煙と清掃を行っている。総合防災事業は、消火設備・防犯設備の機器更新、耐震補強工事が進行中である。資料の整理・研究活動については、建築分野では大岡實博士文庫の保管状況を改善しながら資料整理を進めるとともに、耐震補強工事報告書の刊行を進めている。民俗分野では引き続き暮らしと家をテーマに調査を実施、報告書の刊行を進めている。

実施目標	中期目標(3年、R6まで)(目標水準)	令和5年度計画(目標水準)	令和5年度実績	今後の課題	評価
1文化財建造物維持管理の推進	屋根修理工事(太田家・作田家・高倉完成まで) 園路排水整備工事(山下家周辺、工藤家 完成まで) 文化財建造物の適切な保存管理の推進(破損箇所随時) 文化財周辺環境の改善(支障木管理等)	作田家屋根修理工事(3年計画2年目) 伊藤家・蚕影山屋根修理工事(完成まで) 北村家・野原家・船頭小屋・小泉家便所・佐々木家井戸屋根工事設計(完了まで) 山下家前園路整備工事(完成まで) シロアリ調査(4年目)	作田家屋根修理工事(2年目完了) 伊藤家・蚕影山屋根修理工事(完成) 北村家・野原家・船頭小屋・小泉家便所・佐々木家井戸屋根工事設計(完了) 山下家前園路整備工事(完成) シロアリ調査(4年目)	屋根の劣化状況と耐震補強順位の調整 山下口部分園路整備工事実施	B
2総合防災事業・耐震補強工事の推進	耐震設計(井岡家) 耐震工事(太田家・作田家・井岡家) 既存設備(防災・三澤免震)定期点検・補修(各年1回)	作田家耐震工事(3年計画2年目) 井岡家耐震工事発注準備(入札まで) 消防設備点検(2回) 監視カメラ点検(1回) 三澤家免震装置点検(1回)	作田家耐震工事(2年目完了) 井岡家耐震工事発注準備(完了) 消防設備点検・機器修理(完了) 監視カメラ点検・機器修理(完了) 三澤家免震装置点検(完了)	老朽化設備の迅速な交換及び廃番機器対応 作業スケジュールの事前把握	B

3 収蔵資料の整理・調査研究の推進と成果の公表	本館地下収蔵庫の燻蒸実施(2年に1回) 民俗資料の整理推進(資料カードと現物のつき合わせ) 耐震工事報告書刊行(山下家・太田家) 「暮らしと家」調査(報告書2年に1冊刊行)	本館・原家・野原家等未整理分の資料整理(完了まで) 山下家、太田家耐震工事報告書(原稿編集まで) 中野島小学校保管資料の移動(虹ヶ丘小学校へ) 古民家旧蔵資料データベースのAccessへの移行(完了まで)	本館・原家・野原家等未整理分の資料整理(完了) 山下家、太田家耐震工事報告書(原稿編集委託中) 中野島小保管資料を虹ヶ丘小へ移動、整理、展示(完了) 古民家旧蔵資料データベースをAccessへ移行(完了) 調査報告、資料目録HP公開(完了) 「民家園だより」発行(2回) 「民家園だより」全バックナンバーHP公開(完了) 岡家・左官道具未整理分資料整理(完了) 大岡資料整理(引継による現状把握、未整理分確認) 民具学会研究会開催(2回) 学芸員による学会誌等への寄稿(11本) 「暮らしと家」調査できず	各民家収蔵資料の再調査と整理 継続的な整理の実施(期間等目標の具体化、進捗管理の実施) 「暮らしと家」調査実施 大岡資料の継続的な整理 収蔵庫の燻蒸実施	B
<div> <div></div> <div> <div> <div></div> <div> <div></div> <div></div> </div> </div> </div> </div> <div> <div></div> <div></div> </div>	文化財建造物の保存修理工事は、耐震性確保と屋根修理を主体に概ね計画通り進んでいる。耐震性向上目的の工事は、文化財的価値の維持と安全性確保の両立を目指す点において、個々の事例においてどのような検討が行われ実施に至ったのか、その経緯記録が重要である。その意味で修理工事報告書を刊行することは評価できる。一方、園内防災関係設備は10年ほど前に大規模な設備改修が終了しているが、機器の進化が型式更新時における弊害になっている状況は、今後留意する必要がある。収蔵品の保管公開手法の工夫と調査研究の進展は評価できる。なお、大岡資料整理の成果(目録化)のように、件数は少ないが資料の特別閲覧希望や資料整理状況視察の問い合わせがある点は、野外博物館における調査研究を長期的視野で評価すべきことを示唆しており、注目すべきである。				

(2) 展示の充実

現状：文化財建造物を野外展示し、それを補うため本館に展示室を設置している。各古民家では地域の民具や年中行事の展示を行っている他、囲炉裏での火焚きや生活用具の製作風景、さらには屋根の葺替えや耐震補強等の工事も展示の一環としてとらえ、作業風景を見せる工夫をしている。本館常設展示室では導入として日本の民家建築の基本を展示し、企画展示室では民俗や建築をテーマに年2回企画展を開催している。また、敷地内も展示として整備を進め、石造物を配置している他、民家の旧所在地に合わせた植栽や、景観にふさわしい案内板の設置を行っている。こうした展示には解説に英文を併記している他、12カ国語パンフレットや4カ国語音声ガイド(日英中韓)を導入し、外国人対応にも力を入れている。

実施目標	中期目標(3年、R6まで)(目標水準)	令和5年度計画(目標水準)	令和5年度実績	今後の課題	評価
1常設展示及び関連事業の充実	音声ガイドサービスの継続 園内展示整備(継続的美化、パネルのビジュアル化) 古民家解説の充実(古民家めぐり年24回、子供向けの定例化) 大規模工事ごとに見学会開催・解説パネル設置 生田緑地植生管理計画に合わせた古民家周囲の植込みや畑の整備 車椅子でアクセスできない古民家内部の動画による視聴サービス	音声ガイドサービスの継続(二次元コード、タブレット貸し出し) 園内の展示点検(体制の確立と継続) 民家解説実施(24回) 子供向け民家解説実施(1回) 工事解説パネル設置(作田、伊藤、園路) 展示環境維持のための除草(継続) 車椅子でアクセスできない古民家内部の動画視聴サービス(水車小屋、蚕影山、岩澤家、船越の舞台)	音声ガイド、タブレット貸出サービスに加えWEB版作成(完成) 展示点検(下半期実施できず) 民家解説実施(大人24回、子供1回) 工事解説パネル設置(作田・伊藤)、解説パンフレット作成、配布用容器設置(作田) 調査に基づく年中行事展示見直し(完了) 園内展示植物の手入れ 古民家内部の動画による視聴サービス(実施できず)	園内展示点検の恒常的な実施 工事の進捗に合わせた解説パネルの更新 車椅子でアクセスできない古民家内部の動画視聴サービスの実施	B
2企画展示及び関連事業の充実	民家博物館としての特性を活かした企画展示開催(年2本) 一般の人が手に取りやすい解説図録の刊行(年2冊) それに伴う展示解説(会期中月1回)やワークショップの開催(年2本)	新企画展2本開催(前期:「東北の手仕事Ⅱー布ー」、図録は令和4年度後期と共通、後期は内容未定、図録刊行まで) 企画展示解説(一般向け10回、子供向け2回) 企画展における解説パネルの英訳シート作成(各企画展) 企画展終了後の資料整理	企画展開催(2本) 図録刊行(1冊) 展示解説実施(一般10回、子供3回) 解説パネル英訳シート作成(2回) さわれるコーナー設置(1回) 企画展関連講座開催(1回) 広報・ポスター作成(2回) 企画展終了後の資料整理実施(完了)	企画展示の広報強化	B
評定意見	<p>企画展の展示解説や民家解説などを定期的に実施し、参加者の年齢や構成などに応じて臨機応変な対応ができており高く評価できる。民家園内では屋根葺き替えや耐震工事などの工事が常にどこかで実施されているが、解説パネルやパンフレットなどを適宜設置し、それ自体も民家園の展示の一つとして学べるように工夫されている。</p> <p>また、北村家の年中行事展示では、民俗調査に基づく展示の見直しも行われており、調査研究とその成果としての展示が確実に実施されているといえる。年2回の企画展示は小規模ながら優れた内容と評価できる。今後もぜひ質の高い企画展を続けていただきたい。次年度以降の課題として挙げられている企画展示の広報強化に期待したい。</p> <p>一方、古民家内部の動画視聴サービスの実施と、下半期の展示点検が業務多忙のために実施できなかったことは残念である。盛りだくさんのイベントは民家園への訴求力にもなっているが、基本的な博物館業務に支障がでないよう、人員体制や予算などとのバランスを見極めて計画する必要がある。</p>				

(3) 教育普及活動の充実

現状：教育普及活動として体験講座・ワークショップ等を実施、特に子どもや親子向けの行事、当日自由参加型の行事に力を入れている。また施設の特長を活かし、古民家の旧所在地と連携した事業として各地の芸能公演や物産展などを行っている。この他、学校との連携を進め、小学生の学習プログラムや中学生の職業体験の受け入れを行っている。また、民家園の運営を支える炉端の会（ボランティア）・民具製作技術保存会（市民活動団体）と協力者会議を開催し、事業運営の改善を進めている。さらに、指定管理者は伝統工芸館や古民家カフェの運営を行っている他、さまざまな自主事業を行っている。					
実施目標	中期目標(3年、R6まで)(目標水準)	令和5年度計画(目標水準)	令和5年度実績	今後の課題	評価
1 各種事業(講座・ワークショップ・催事)の充実	自由参加型・体験型事業の充実 生田緑地他館等との連携事業の充実(年2回) 旧所在地交流事業の実施(年1回以上) 伝統芸能公演の実施(年1回) 市民団体との連携による昔話公演(年25回)	体験講座の実施(竹細工、わら細工、機織り) 夏休み体験講座テキストの改良(竹細工、わら細工) 当日参加型体験事業(昔遊び、七夕他) 科学館との連携事業実施(七夕、月見) 旧所在地交流事業の実施(南砺市) 伝統芸能公演の開催(1回、人形浄瑠璃) 昔話公演(25回) 夜間公開(2日間)	体験講座の実施(竹、わら、はた全11講座) 夏休み体験講座テキストの改良(竹、わら) 当日参加型体験(昔遊び、七夕、十五夜、正月) 科学館連携事業(七夕、月見) 旧所在地交流事業(南砺市) 伝統芸能公演の開催(人形浄瑠璃) 船越の舞台内部公開、奈落体験(1回) 昔話公演(23回) 夜間公開(2日間) 園にふさわしい事業を開催していくため教育普及事業等実施ガイドライン策定(完了)	教育普及事業中の危機管理 旧所在地交流事業の実施方針検討	B
2 学校連携の充実	学校団体の体験・見学受入(年間150校) 学習教材の継続的な見直し 職業体験・総合学習等のプログラム受入 学校郷土資料室等整備支援(2校、メンテナンスの実施)	小学校向け体験プログラム・見学の受入(150校) 中学校の職場体験受入 ギガ端末の活用(児童向け事前学習資料、教員向け説明資料の配信) 博物館実習、実測実習等大学の利用受入 学校郷土資料室等整備支援(1校)	小学校体験・見学受入(計140校) 中学校職場体験受入(5校) ギガ端末によるオンライン授業(1校) ギガ端末研修参加 博物館実習受入(6名) 学芸員課程等大学見学受入(7校) 大学建築系学部特別利用受入(10校) 学校郷土資料室等整備支援(1校)	学校見学の質の向上 小学校体験プログラムの定期的な見直し 実測利用の日程調整方法検討 教材用民具のメンテナンス ギガ端末の有効活用	B

3市民活動団体との連携	炉端の会、民技会との連携の強化 両者との協力者会議による運営改善 (年1回) 生田緑地マネジメント会議・自然環境管理 保全会議との連携(年7回会議出席)	協力者会議開催(1回) 炉端の会の運営改善(土日も含めた学 習会開催、学習会資料のホームページ への掲載、情報周知のためのメール活 用) 民技会新人研修(1回) 生田緑地マネジメント会議への出席・意 見聴取(5回)	協力者会議開催せず(炉端の会、民技 会、個別に意見聴取) 炉端の会の運営改善(土日も含めた学 習会開催、学習会資料のHP掲載、メー ル活用) 民技会新人研修(開催せず) 民技会50周年事業支援 生田緑地マネジメント会議出席(3回)	コロナ後の炉端の会、民技会との連携 のあり方の再検討	C
4伝統工芸館・自主事業の充実	本藍の継続的使用のためスタッフの技 術向上(研修継続) 藍染めの魅力の情報発信 自主事業の充実(年5回以上) 古民家カフェの運営(継続) 指定管理者変更になった場合の円滑な 移行 コロナ終息後、外国人向け藍染めプロ グラムの再開	出張ワークショップの実施 体験・講座のスムーズな申込みための システム導入 SNSを使用した伝統工芸館からの情報 発信 染織技術の研修受講(1回) ミニ展示開催(5回) 展示品の販売(Tシャツ他) 藍染め新商品の開発(5点) 自主事業イベントの充実(ベゴマ大会 他) 春と秋の古民家カフェ営業(事業者変 更) 通販事業への積極的な取り組み(新商 品の追加、広報強化)	出張ワークショップの実施(川崎日航ホ テル) 体験・講座の申込みためのシステム導 入(「ウラカタ」という予約システム導入) Xを使用した情報発信 染織技術の研修受講(somenovaにて受 講) ミニ展示開催(11回) 展示品の販売(Tシャツ、干支型染作品 等) 藍染め新商品の開発(17点) 自主事業イベント開催(藍染め除き15種 うち5種は複数回実施) 春と秋の古民家カフェ営業(事業者変 更、春秋の通常営業の他夜間公開、正 月、桜の時期にも実施) 通販事業への積極的な取り組み(新商 品5点追加、ショップカードを作成、配 布)	繰り返し開催が好まれるイベントとそうで ないイベントを見分け、前者は回数を増 やし、後者は重複でなく種類増加への 転換を目指す インバウンド向けイベント、または、イン バウンドが参加しやすいイベントづくり オンラインショップによる販売の売り上げ の底上げ 緑化フェアへの協力と通常業務充実の 舵取り	A
評定意見	日本民家園では、体験講座、ワークショップ、伝統芸能公演、古民家の旧所在との交流事業など、年間を通して多彩な教育普及事業が実施されている。令和5年度は、これらの事業が日本民家園にふさわしいものであるように、実施のためのガイドラインが策定された。学校連携は小学校の社会科見学を中心に、充実した活動がなされている。今後も各教育現場のニーズをくみ取り、プログラムの改良やギガ端末などの新しいツールの活用なども積極的に取り組んでいけると良い。とりわけ、大学の建築系学部との連携は日本民家園ならではのものである。指導教員との事前のすりあわせなどを十分に行ない、より充実した学習へとつなげてほしい。 伝統工芸館でのミニ展示開催や物品販売体制の強化による参加者ならびに売り上げ増は、日本民家園の活性化にもつながっており評価できる。 また、日本民家園の活動には民具制作技術保存会、炉端の会との連携が不可欠であり、継続的に三者協議の場を持つなどして、十分に配慮されたい。				

2 運営・管理活動

(1) 博物館経営の強化

現状：平成25年度より指定管理者制度を導入し(5年毎に更新)、学芸業務と全体の統括業務は川崎市が、管理運営業務と広報業務を指定管理者が担っている。市の職員、指定管理者の職員、いずれも資質向上のため各種研修に積極的に参加し、来園者の満足度向上を目標にリピーター確保のための工夫を重ねている。					
実施目標	中期目標(3年、R6まで)(目標水準)	令和5年度計画(目標水準)	令和5年度実績	今後の課題	評価
1運営体制の整備・研修の充実	民家園運営基本方針の策定(完了まで) 研修機会の確保(市職員年1回以上) 事業評価の実施と活用(毎年実施・公表) 次期指定管理への円滑な移行(現指定管理は令和4年度まで) 民家園ルールブックの整備(継続)	運営基本方針の策定(完了まで) 庁内外の研修への参加(市職員1回以上) 新規スタッフの園内研修実施(随時) 事業評価の実施と活用(実施と公表) 窓口の事例等を明文化した民家園ルールブックの整備(継続)	運営基本方針策定(完了) 博物館職員研修開催(市教委主催、1回) 庁内外への研修の参加(全職員参加) 新規スタッフ園内研修実施(1回) 事業評価の実施と活用(実施、公表) 民家園ルールブック増補(逐次)	窓口対応事例のさらなる蓄積と共有化	B
2広報の強化	公式サイトの充実 Twitter・YouTubeを活用した広報 生田緑地他施設・他局・観光協会・地元商店会・神奈川県等と連携した広報 指定管理者構成企業のルート等を活用した広報の充実 指定管理者変更になった場合の公式サイトの円滑な移行 コロナ終息後の訪日外国人に向けた広報	Twitter・YouTubeの継続的な広報活用 Twitterフォロワー数の増加(計3200人[4/29現在2927人]) 指定管理者構成企業のルート等を活用した広報 生田緑地他施設・他局・観光協会・神奈川県等と連携した外国人向けを含めた広報 催事等リリースの作成と発送の充実	公式サイトにて民家園だよりバックナンバー全号公開(完了) 公式サイトの改修(準備作業まで) Xによる広報実施(フォロワー3,345人) Youtubeを用いた広報は実施できず 指定管理者構成企業のルートを活用した広報(東急電鉄駅へのポスター掲出) 企画展関連講座広報実施(チラシ配布) 生田緑地他施設・他局・観光協会・神奈川県等と連携した外国人向けを含めた広報の実施(川崎市国際交流協会での広報物配布、かわさきFMでの広報等) 催事等リリースの作成と発送(イベントバンク等への情報提供) 外国人来園者のため障子貼りに使用している手漉き和紙紹介のリーフレット作成	Youtubeを用いた広報 企画展の広報強化 外国人向け広報の強化、外国語リーフレットの内容更新 反響の大きい優れた広報先の新規開拓 マスコミへのリリース発信の強化	B
評定意見	<p>本項に関わる業務は、概ね計画通り達成したものと評価する。</p> <p>入園者数等の定量的実績は、年度の目標値にあと一步届かなかった部分もあるが、いずれも前年度実績を上回り、コロナ禍前の状況に回復し、それをしのぐ値も出るなど、良い傾向が見られる。外国人の入園者が順調に増えているが、訪日観光客は更に増えると予想されるので、今後の実績につながるよう、経営面での取り組みをさらに進めてほしい。外国人をはじめ、他の入園者によるSNS発信を参考に来園する利用者は少なくないと考え。指定管理者制度の強みを生かした民家園側からの積極的な広報・情報発信・コンテンツ提供に加え、入園者によるSNS発信を促すような仕掛けや工夫を、ぜひ検討すると良い。</p> <p>懸案の日本民家園運営基本方針が策定されたことは、今年度の大きな成果である。今後はこの方針に則り、組織体制を整え、確実に民家園を運営し、博物館活動を展開していくことが期待される。</p>				

(2) 利用者の利便性・安全性の向上

<p>現状： 来園者サービス施設として救護室や授乳スペース等を整備、ベンチやテーブル等のリニューアルも進めている。また、バリアフリー化として古民家の敷居にスロープを用意、園路についても手すりの設置や土舗装化など対応を進めている。この他、来園者へのサービス向上のため、ショップの充実と窓口業務の改善に努めている。危機管理については各種防災訓練を実施、危機管理マニュアルを随時更新している。</p>					
実施目標	中期目標(3年、R6まで)(目標水準)	令和5年度計画(目標水準)	令和5年度実績	今後の課題	評価
1来園者サービスの向上	<p>休憩スペースの充実とメンテナンス 民家園の特色を活かした継続的な商品開発(毎年2点) 指定管理者変更になった場合のショップの円滑な移行 さまざまな来園者に配慮したハード面、ソフト面での環境の整備(バリアフリー、外国人対応)</p>	<p>真夏の猛暑に対応した本館、古民家土間の休憩スペース充実 民家園の特色を活かした新商品・カプセルトイの開発(5点) 券売へのキャッシュレス決済導入 ショップキャッシュレス決済の充実 ショップ商品表示の日英併記化 小さな「バリア」の継続的点検と逐次対応</p>	<p>真夏の猛暑に対応し、土間、床上公開棟の昼食利用再開 本館展示室の空調機修理実施 民家園の特色を活かした新商品・カプセルトイの開発(藍染めを除き32点) 券売へのキャッシュレス決済導入(10月) ショップキャッシュレス決済の充実(新サービス導入により集計機能力向上) ショップ商品表示の日英併記化(完了) 小さな「バリア」の点検と対応(随時、英語対応強化) 園内美観向上のため色彩ガイドライン策定(完了)</p>	<p>真夏の猛暑への対応検討 伝統工芸館の空調設備の拡充 インバウンドを意識した価格帯の商品開発 現行商品の精査実施とターゲット層の広いオリジナル商品開発 売払い物販(特に図録)の販売強化</p>	B
2危機管理体制の整備	<p>園路危険箇所の定期的な点検 危機管理マニュアルの継続的更新 消防署との連携による防災訓練の実施(年4回) 電気系統の定期的な点検 新人警備員の研修充実 来園者の避難経路の再確認</p>	<p>園路危険箇所、落枝・倒木の継続的な点検と対応(通年) 事務所・窓口・ボランティア・各種イベントでのコロナ対応マニュアルのまとめ 新規スタッフも含めた危機管理マニュアルの読み合わせ ボランティアや清掃スタッフも含めた防災訓練実施(年4回) 古民家の漏電対策として継続的な点検の実施(各棟1回) 新規採用警備員・清掃スタッフの研修実施(逐次)</p>	<p>園路危険箇所(特にナラ枯れ木)、落枝・倒木の点検と対応(通年、台風後、大雪後) 事務所・窓口・ボランティア・各種イベントでのコロナ対応マニュアル・記録まとめ(完了) 能登地震後に防災マニュアルの読み合わせ(完了) 防災訓練実施(4回) 古民家電気設備点検実施(1回) 新規警備清掃スタッフ概要研修(2回)</p>	<p>園内危険箇所の把握と対応強化 災害対応がより身近に感じられる訓練実施</p>	B
評定意見	<p>年度計画は、概ね達成したものと評価する。 利用者サービスとして、ミュージアムショップは来園の思い出の品の提供等、民家園の魅力のひとつになり得るもののため、そのサービス向上に努めていることは、評価できる。雨天や夏の猛暑の状況等を考えると、園内で屋根の下で休憩できる場所の充実は重要であり、そのための施設の整備や、保存等に影響を与えない範囲での古民家の活用を、検討してもらいたい。 防災・安全への取り組みは、着実に実行されている。しかし災害は想定外の形・規模で発生することがあるため、文化財と人への被害を防ぐための努力を続けることが求められる。 今後、本館や伝統工芸館の施設設備の老朽化対策も必要になってくるため、資料保存、展示見学等の施設利用、職員の執務環境等に悪影響が出ないように、文化財建造物以外の管理・収蔵・展示施設の改修、設備の更新等も、計画的に進めるべきである。また、そのために本事業計画・評価シートに施設管理関連の項目立てをすることも、検討すると良い。</p>				